

血をさらさらにする薬（抗凝固薬）を飲む方へ

心房細動（しんぼうさいどう）などがあると、心臓の中に血のかたまりができて脳梗塞を起こすことがあります。抗凝固薬（こうぎょうこやく）はそれを防ぐ薬です。血が止まりにくくなる薬なので、出血のサインを知っておくことと、ほかの医師や歯科医師に「飲んでいる」と伝えることが大切です。

この紙の対象の薬

アピキサバン、リバーロキサバン、エドキサバン、ダビガトラン（直接経口抗凝固薬、DOAC）と、ワルファリンです。飲んでいる薬の名前は「お薬手帳」で確認できます。

出血のサインに気づいたら、連絡してください

- ・鼻血や歯ぐきの出血が止まりにくい、あざが増える
- ・尿が赤い、便が黒い、便に血が混じる、血を吐く
- ・顔色が悪い、だるい、動悸や息切れ（貧血のサイン）
- ・転んで頭を打ったあとの、急な頭痛、吐き気、片側の手足の動きにくさ、ろれつが回らない（すぐに救急へ）

けがをしないように気をつけてください。出血すると血が止まりにくくなっています。

ほかの医師・歯科医師・薬剤師に、必ず伝えてください

- ・抜歯、手術、内視鏡（胃カメラ・大腸カメラ）の前には、飲んでいることを必ず伝えてください
- ・続けるか休むかは、処置をする医師と処方している担当医が相談して決めます
- ・自分の判断で休まないでください。休んでいる間は血のかたまりができやすくなります
- ・市販の痛み止め（ロキソプロフェン、イブプロフェンなどのNSAIDs）は出血しやすくなることがあります。買う前に、薬剤師に「抗凝固薬を飲んでいる」と伝えてください

自分の判断でやめない、飲み忘れは薬ごとに確認

体調がよくても、やめると脳梗塞を防ぐ効果がなくなります。飲み忘れたときの扱いは薬によって違うので、「飲み忘れたらどうするか」を担当医か薬剤師に確認しておいてください。飲みにくい、飲み忘れが多い、といったときも、やめる前にご相談ください。

こんなときは相談してください

- ・上の出血のサインに気づいたとき。頭を打ったあとの頭痛や吐き気、急なしゃべりにくさ、片側の手足の動きにくさは、すぐに救急へ
- ・ほかの科で手術・抜歯・内視鏡の予定が入ったとき、新しい薬や市販薬を始めるとき

この紙は、担当医の説明を補うものです。診断や治療の指示ではありません。気になることは担当医にご相談ください。

出典: 日本循環器学会・日本不整脈心電学会「2020年改訂版 不整脈薬物治療ガイドライン」 https://www.j-circ.or.jp/cms/wp-content/uploads/2020/01/JCS2020_Ono.pdf / 日本循環器学会・日本不整脈心電学会「2024年 JCS/JHRS ガイドライン フォーカスアップ デート版 不整脈治療」 https://www.j-circ.or.jp/cms/wp-content/uploads/2024/03/JCS2024_Iwasaki.pdf / PMDA「患者向医薬品ガイド」（アピキサバン、2025年11月更新） https://www.info.pmda.go.jp/downfiles/ph/GUI/670605_3339004F1029_1_00G.pdf

作成: マナヴィア（MANNAVIA、現役内科医）／最終確認: 2026/09/15／製薬会社の資金は受けていません／
mannavia.com/leaflets/anticoagulant-daily